

アセアン・インド地域事務所(開設準備中)
プレ AIRO レポート 2
～先遣隊は電車に乗ってみた～

在バンコク事務所開設準備室

タイ入国後の隔離生活を終えた先遣隊は、2月8日(月)よりバンコクにおける活動を開始しました。2回目のプレ AIRO レポートでは、活動開始から毎日のように利用している高架鉄道と地下鉄、それと商業施設についてレポートします。

1. BTS(高架鉄道)

○ BTS はバンコクを中心街を走る高架鉄道であり、1999年12月に開業した。ライトグリーンラインとダークグリーンラインの2路線があり、バンコクの街中の手軽な移動手段として定着している(写真1)。



写真1

○ 先遣隊も用務先への移動に最も使っている交通手段であり、隔離生活を終えた当日に駅の窓口でラビット・カードというICカードを購入した。ラビット・カードは街中のマクドナルド、百貨店のフードコート等の商業施設でも支払いに利用できるので便利である。

○ 新型コロナウイルス感染症対策としては、改札入口にサーモグラフィーが設置され検温が行われている(写真2)。また、車内やホームの至る所に感染予防対策に関するポスター等が掲出されている(写真3)。



写真2



写真3

○ 主要駅にはホームドアが設置されている。ホームドア両側の電子広告と反対側ホーム上の電子広告がリンクされており、効果的な宣伝を行っていた(写真4)。

【雑感】

- コロナの影響で在宅ワークが広がっているためバンコクの電車はいつもより空いていると聞いてはいたが、コロナ前の状況を知らない身としては、車内は日中でも比較的混雑しているとの感触を持った(写真5)。
- 新型コロナウイルス感染症対策として、旅客利便性を低下させない範囲で実施可能な取り組みを実践しているものの、サーモグラフィーの検温はおざなりであり、どれほどの実効性があるのかは疑問である。
- 利用者の増加に伴う混雑が激しく、朝のホームは人で埋まり、最混雑区間では乗車するために何本か列車を見送らざるを得ないという声が、複数の訪問先で聞かれた。今後も延伸が続き、利用者の増加が予想される中で、どのような混雑緩和対策を取るのが注目される。
- ラッピング電車が多く、駅や車内にも多数の広告が掲出されている。なお、車内のデジタルサイネージは日本と異なり、音声が出る形式であった。運行会社の総売上げに占める広告料収入比率は日本の鉄道会社よりも高いものと予想される。

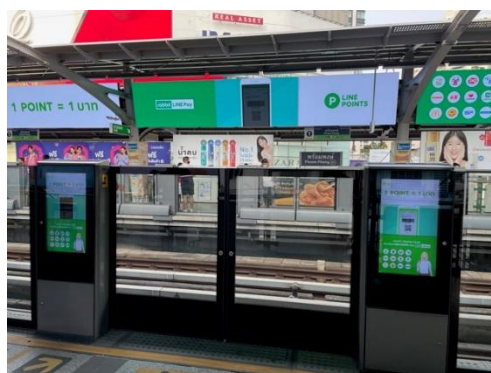


写真4



写真5

2. MRT ブルーライン(地下鉄)¹

※MRT は駅構内及び車内での写真撮影が禁止されているため、撮影できる写真が限定的である。

- MRT ブルーラインはバンコク初の地下鉄であり、日本からの技術支援・経済支援の下に2004年7月に開業した。

¹ MRT ブルーラインの整備は、東南アジアの地下鉄において日本が初めて技術支援・経済支援を実施した画期となる事業である。日本の地下鉄整備における技術の蓄積が軟弱地盤のバンコクにおける地下鉄整備を可能とした他、駅空間の設計・洪水等の浸水対策、安全対策等の地下鉄整備のノウハウが、その後のベトナムのハノイやホーチミン、ジャカルタ等における安全で質の高い地下鉄整備に活用されている。

- 先遣隊が BTS に次いで使っている交通手段であり、初めての乗車時に駅の窓口でストアード・バリュー・カードというICカードを購入した。(写真6右側。左側は BTS のラビット・カード。なお、両者に互換性はない。)



写真6

- 駅入口にはセキュリティ・チェックがあり、金属探知機を通る必要がある(写真7)。
- 新型コロナウイルス感染症対策としては、BTS と同様改札入口にサーモグラフィーが設置され検温が行われている他、車内やホームの至る所に感染予防対策に関するポスター等が掲出されている。
- 洪水発生時の浸水防止対策として、駅入口は道路よりも高い位置に設置されており、駅に入るためには数段の階段を昇る必要がある。このため、主要駅にはスロープ、エレベーター等のバリアフリー設備が設置されている(写真8)。



写真7

【雑感】

- コロナの影響で在宅ワークが広がっているのでバンコクの電車はいつもよりは空いていると聞いていたが、コロナ前の状況知らない身としては、BTS ほどではないものの、車内は日中でも比較的混雑しているとの感触を持った。
- 全般的に BTS よりもしっかりした管理・運営がなされているとの印象を持った。例えば、新型コロナウイルス感染症対策としての検温も一人一人実施されており、それなりの効果があるものと思われる。



写真8

- もっとも、このように手間をかけられるのも、利用者数が BTS に比較すれば少ないという側面もあるものと考えられ、ラッシュなど多客時にどのような対応を取っているのか確認してみる必要がある。
- 駅構内も整然としており利用する分には快適であるが、無駄に駅構内が広いという印象を受ける。一部の駅には商業施設が入ってはいるものの、エキナカビジネス拡大の余地が大きいものと感じる。

3. 百貨店等の商業施設

○ 百貨店等の商業施設では、出入口にタイ政府が開発した“Thai Chana”（タイ語で「タイの勝利」を意味する。）という商業施設訪問客追跡アプリのQRコードが設置されており、入店時にはこれをスマホで読み取って入場を記録し、退店時には出場を記録



写真9

する必要があり（写真9）。これは、仮にコロナ患者が発生した場合に同時時間帯に店内にいた客を把握し、PCR検査を実施するための措置と聞いている。

○ その上で、金属探知機を通過し、一人一人の検温がなされる（写真10）。検温結果が正常であれば服にシールが張られ、入店することができる（写真11）。



写真10

○ なお、商業施設の一部のテナントでは、服にシールが貼られていても、さらにテナント入店時に手のアルコール消毒及び検温を実施するとともに、氏名及び電話番号の記帳を求められるところがあった。



写真11

【雑感】

- バンコクで活動する中で最も驚いたのが、百貨店等商業施設入場時の厳格なコロナ対策である。
- 商業施設訪問客追跡アプリを開発し、その利用を百貨店等商業施設及び来店者に求める対応には、コロナ封じ込めに向けたタイ政府の強い意志を感じる。
- また、タイの人々がこれら対策に極めて協力的であることも驚きであった。タイの人々もコロナの感染拡大を恐れており、感染拡大予防のためには日常生活においてある程度の制約を受けることはやむを得ないという国民的コンセンサスが醸成されているのではないかと考えられる。

（以上）